

農業委員会だより



間人みなと祭り (丹後町間人)

豊漁を祈り、海の恵みに感謝する漁師町の夏祭りで、宝船(梵天丸)が間人地内を巡航しました。

● 目 次 ●

2~3P **農を語る** 中川自然農園 中川秀雄さん(大宮町延利)

7月1日から新体制スタート!

4~6P =農業委員紹介・農地利用最適化推進委員紹介=
=農業委員担当区域・農地利用最適化推進委員担当区域一覧=

7P **農地の所有権移転・農地の転用・形状変更
には農業委員会への手続きが必要です!!**

8P **全農地利用状況調査を行っています!!**

京丹後紀行「モリアオガエル」～網野町仲禅寺～

9P **瓦版「アトランティックジャイアントに
情熱を懸けてます!!」** 田中暁彦さん

10P **郷土料理「おこわ」**



九条ネギほ場で畝間の草刈りをする中川さん

色々、果物も、魚も、山の恵みも、多種多様にあります。丹後を丸ごと好きになってもらう売り込み方が良いかもしれません。それには、来てもらうのが一番です。ちょうど高速も京丹後市に繋がりますから、京阪神からもぐっと近くなりますね。「えっ、こんなところがあったのか?」と、もともと丹後のファンが出来れば、丹後の黄金時代も近くなりそうです。(笑)

《オリジナル》

肥料も沢山やれば出来るものもあれば、味を良くしようと思えば控えたり、また、草と肥料の関係は? 沢山やれば野菜も育つ代わりに、草も物凄く育ちます。答えは、出てないですが、収量・味・草のバランスを考えて、どの程度の肥料が良いのかを、試行錯誤中です。農業生産に必要な物が全て身近で手に入れば、本当の意味で循環型の農業が出来ます。そのためには、山の管理も必要です。昔は薪が必須だったから、山の管理も出来たでしょうが、現在で

は、その様な事は無いので大変ですね。どこでも手に入るもので作っても、オリジナリティは発揮できないと思います。ここでしか手に入らない物で作る方が、さらにオリジナリティは高いと思います。高いオリジナリティが発揮出来れば、顧客満足度も高くなり、引きあいも強くなるのではないかと思います。今後もう少しでもそれに近づいて行ける様に邁進していきたいです。

《夢は》
「農村天国」ですね!
農村だから幸せと言える農村を目指しています。過去も現在も同じかもしれませんが、都市部に人口の流れが止みません。

しかし、自然の働きの中で、もうそろそろ、その反動が来ても良いと感じています。確かに農村を維持しようと考えると、人手が要りますから、その人の流れがあれば良いのですが、全国的にも人口減少ですから、なかなかその流れは難しいですね。でも少しずつですが、農村に人の流れがあるように感じています。

また、その為の情報発信や、魅力も作っていかなくてはいけないと考えています。

どんな農村天国か? 例えば、「今日は芸術の日」みたいに設定して、何処かの施設で、五感を味わう。目で観る、耳で聴く、鼻で香る、口で味わう、手に触れる等、農という芸術を味わう。鼻で香るや口で味わうは、農業生産のものなので、自然農法で栽培された、花や米・野菜・果物などを使用したい

とあります。肉も家畜生産なので、ストレスの無い環境で育てられた物が好ましいですね。魚も忘れてはいけません。

そんな物を食べたり、観たり、聴いたり、触れたり出来れば、市内外からも、国内外からも来てくれるのではないのでしょうか。全て京丹後産であれば、そこに行かないと味わう事が出来ないから、観光的にも、産業的にも素晴らしい物が出来ると思います。そんな「農村天国」が私の夢です。

また、1集落か2・3集落ぐらいの規模で、公園等も出来れば良いと思います。そこには、果樹園があり、収穫時期には収穫祭などを行い、関係者・来園者で収穫を祝いたいですね。その様な事が出来れば、陸の孤島でも沢山の観光客が来てくれるのではないのでしょうか? 観光客頼みではないですが、その様な商品も出来れば、他に売り込みに行っても必ずや取引が成功するのではないだろうかと思えます。

この様な夢みたいな事や、困難な事にぶつかると、これを自分に言い聞かせてます。

「千里の道も一歩から」
まずは、一歩を踏み出さないと何も始まらないですね。

最後に今回この様な執筆の機会を頂き有難く思います。自分を見つめ直す事も出来ました。より一層、有機・無農薬栽培に励みたいと思います。

農を語る

中川自然農園 中川秀雄さん(44才)

(大宮町延利)

《経営規模》

- ・水稲 6 ha
- ・野菜(国営 他) 2 ha
- ・野菜(水田) 1 ha

多品目栽培をしています。

《販売方法と品目》

宅配と、契約販売などです。こだわりの持つて栽培しているので、その様な商品が欲しいと言ってもらえる会社に卸しています。また、月に1・2回、京都市内に対面販売に行っています。売り上げはそんなに良いわけではないですが、お客様が求めるものを聞ける事が何よりの情報です。あれもこれもと色々栽培してしまい、手が回らない状態になってしまっています。それで、収量が減ってしまった現在の現状です。

今年で就農して20年目になります。私の栽培方法では、どの品目が一番合うのかを模索中と言った方が良いでしょう。

主に中山間地になるので、獣害も有ります。中々獣害に遭わない品目を探すのは苦労が要ります。今までの経験



無農薬栽培のため雑草対策が大変です!!

丹後の農業が黄金時代になる時を考えて!

宮津高校建築科を卒業後、京都市内で、4年間社会人をして、色々な職業にも就きましたが、故郷で農業をしたいと思い、静岡にある、MOA自然農法大学校に入学して2年間学び、1995年4月に丹後に帰り就農しました。その時24歳でした。

が、思うように行かず、悩みました。栽培の現状ですが、米は、農薬・化学肥料を使用しない栽培と、特別栽培米を栽培しています。野菜も農薬・化学肥料を一切使用しない栽培をしています。えんどうなどの豆類、ピーマン、万願寺、じゃがいも、さつまいも、ナス、ミニトマト、九条ネギ、ニンニク等々、

《丹後に黄金時代?》

皆さん、丹後は陸の孤島と思われるでしょう。確かにそうです。他府県の地域と比べれば、確かに鉄道・道路等の開発は遅れていると思います。しかし遅れているからこそ、丹後が注目されると思います。取引先となるバイヤー等の方は、日本国中色々な所に行かれています。何か新しい・珍しい物は無いかと、日々情報を集めておられます。やっぱり近場や交通の便の良い所から攻められて、もう無いかな? 他は? という時に、「丹後」です。

全国農業新聞を購読してみませんか?



全国農業新聞は公的機関である農業委員会系統組織が発行する週刊の農業総合専門紙です。「週刊」ということから日々の報道には限界がありますが、むしろ週刊の時間を活かし、大切な情報をわかりやすくまとめています。

また、多くの読者の皆様に満足して頂けるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています。さらに、全国47都道府県にある支局の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。購読の申込みは京丹後市農業委員会へお気軽に連絡ください。

お知らせ 平成27年4月から購読料が変更されています。
週刊 金曜日発行 月 700 円、年 8,400 円(消費税込み)

農地利用最適化推進委員紹介

(任期:平成28年7月~平成31年6月)



沖 俊彦 荻野善太郎 山本 文雄 藤原 高志 嶋田 曙記 安達 操
 小高 延秋 中西 和夫 由利 隆志 糸井 泰夫 村尾 隆男 木成 弘之
 日下部喜信 金羽 廣明 吉岡 清志 引野 都夫 城下 佳郎 岸本 忠雄
 入江 志郎 神村 武志 上山 一俊 永美 安幸 松井 邦行 堀江 弘
 大垣 喜昭 谷口 弘之 平林 孝一 磯田 和昭 吉岡 誠二 山崎 伸悟
 藪下 久雄 西垣 一雄 辻田 壽男 福田 繁夫 岩狹 真 友松 尚文

7月1日から新体制スタート!

農業委員会等に関する法律の改正により農業委員19人、農地利用最適化推進委員36人の総勢55人の新体制でスタートしました。

農業委員紹介

(任期:平成28年7月~平成31年6月)



谷口 光 吉岡 茂伸 (会長職務代理)
 小石原光男 中井 敏博
 鴨田 忠司 高杉 和男



京丹後市農業委員会
 会長 梅田和男

あいさつ

このたび、京丹後市農業委員会会長に就任しました梅田和男です。

「農業委員会等に関する法律」が抜本的に改正され、業務が大幅に見直される中、改めて責務の重大さを痛感している次第です。

さて、農業を取り巻く環境は、ご存知のように農業経営者の高齢化・担い手不足、鳥獣被害や荒廃農地の問題に加えてTPP交渉妥結に伴い、貿易の自由化が進もうとする中、日本の農業のあるべき姿が問われているように感じています。

京丹後市の農業についても然りであり、農産物のブランド化や生産組織

の法人化、また、農業への新規参入者もあり、意欲ある農業への取組みも着実に進んでいることも事実であります。

京丹後市農業委員会は、7月1日より新体制でスタートをしたところです。

その体制は、農業委員が37名から19名に減員となりましたが、新たに農地利用最適化推進委員36名にご就任をいただき、これまで以上に、農地の利用集積や担い手の確保・育成、遊休農地の発生防止など農地利用の最適化の推進にあたり、農業委員会の主体的業務として法定化されたことから、農業委員と農地利用最適化推進委員の活動に大いに期待が寄せられているところです。

こうした期待に沿えるよう、京丹後市農業委員会では、農業の現状を踏まえ、諸問題に取り組み、京丹後市農業の発展の一助となるべく全力で取り組んで参る所存でございますので皆様方の更なるご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。



金久 光男 日方 洋 米田 春美 小石原潔 澤 幸信 岡田 安史
 川漣 明美 仲村 啓一 小國幸太郎 瀬戸 牧男 平林 保信 山副 孝雄

農地の所有権移転・農地の転用・形状変更には農業委員会への手続きが必要です!!

◆農地の売買や貸し借りには許可が必要です。(農地法第3条等)

農地を農地として耕作するために売買または貸し借りをする場合は、農地法第3条に基づき農業委員会の許可を受ける必要があります。

これは資産保有や投機目的などによる農地の取得を規制するとともに、農地を有効に利用できる人に委ねることを目的としています。

◆農地の転用には許可が必要です。(農地法第4条・同法第5条)

農地を農地以外のものを使用する場合は、事前に転用許可が必要です。

農地に住宅等の建築を行う場合や、駐車場、資材置場等として使用する場合があります。

農地の所有者自らが転用を行う場合は「農地法第4条」の許可、所有者以外の方が売買や賃借等によって転用を行う場合は「農地法第5条」の許可を京都府知事から受ける必要があります。

◆農地の形状を変更する場合は届け出が必要です。

農地の利便性を図るために盛土など行い、農地の形状を変更する場合は、農業委員会への届け出が必要です。

これは、周辺農地の耕作者及び農業用施設(道路・水路等)との調整を図ることを目的としています。

お願い

各申請について計画がある場合は、事前に事務局へご相談下さい。特に転用申請については、計画どおり出来ない場所もありますので必ず相談をお願いします。また、地目変更についても事前に相談をお願いします。

定例会と申請締切日

農業委員会では、毎月1回(7日前後)定例会を開催し、農地法等に関する審査を行っています。

農地法等の申請は、毎月20日(20日が休祝日の場合は翌業務日)までに申請書等を農業委員会事務局へ提出して下さい。

問い合わせ先／農業委員会事務局 Tel.0772-69-0040 (京丹後市役所大宮庁舎3F)

【農業委員担当区域・農地利用最適化推進委員担当区域一覧】

町	農業委員氏名	推進委員氏名	担当区域
峰山町	たにぐち ひかる (小西)	あだち みさお 安達 操 (新治)	安、西山、小西、新治、杉谷
		しまだ おけのり 嶋田 曙記 (長岡)	長岡、菅
大宮町	なかい としひろ 中井 敏博 (五箇)	ふじわら たかし 藤原 高志 (久次)	二箇、久次、五箇、鱒留
		やまもと ふみお 山本 文雄 (二箇)	
網野町	こいしほらみつお 小石原光男 (新町)	おぎの ぜんたろう 荻野善太郎 (荒山)	新町、荒山、内記
		おき としひこ 沖 俊彦 (橋木)	丹波、矢田、橋木、石丸、赤坂
大宮町	たかすぎ かずお 高杉 和男 (善王寺)	きなり ひろゆき 木成 弘之 (口大野)	口大野、善王寺、奥大野
	かもだ ただし 鴨田 忠司 (上常吉)	むらお たかお 村尾 隆男 (下常吉)	下常吉、上常吉
		いとい やすお 糸井 泰夫 (三重)	谷内、三重、森本、三坂
	おかだ やすし 岡田 安史 (河辺)	ゆり たかし 由利 隆志 (明田)	明田、延利、五十河、新宮、久住
網野町		なかにし かずお 中西 和夫 (周枳)	周枳
		こたか のぶあき 小高 延秋 (河辺)	河辺
	うめだ かずお 梅田 和男 (網野)	きしもと ただお 岸本 忠雄 (下岡)	網野、水之江、北大路、浅茂川、下岡、小浜
丹後町	さわ ゆきのぶ 澤 幸信 (三津)	しろした よしろう 城下 佳郎 (島津)	島津、仲禅寺、掛津、遊、三津
	こいしほら きよし 小石原 潔 (新庄)	ひきの いくお 引野 都夫 (郷)	高橋、公庄、郷、生野内、切畑、新庄
久美浜町		よしおか せいし 吉岡 清志 (浜詰)	加茂川、岡田、日和田、中立、温泉、下和田、上野、俵野、溝野、浜詰、塩江、磯
	よねだ はるみ 米田 春美 (徳光)	かねほ ひろあき 金羽 廣明 (成願寺)	成願寺、徳光、三宅、大山、岩木、是安、吉永、矢畑、一段、神主、相川谷
		くさかべ よしのぶ 日下部喜信 (岩木)	
久美浜町	ひかた ひろし 日方 洋 (筆石)	ほりえ ひろし 堀江 弘 (間人)	間人、砂方、竹野、宮、牧ノ谷、願興寺、家ノ谷、筆石、乗原、此代
		まつい くにゆき 松井 邦行 (井谷)	平、井上、中野、井谷、畑、遠下、鞍内、碓
		ながみ やすゆき 永美 安幸 (尾和)	袖志、尾和、中浜、久借、上野、谷内、上山
久美浜町	かねひさ みつお 金久 光男 (外村)	うえやま かずとし 上山 一俊 (芋野)	吉沢、芋野、堤
		かみむら たけし 神村 武志 (外村)	溝谷、外村、等楽寺
	よしおか しげのぶ 吉岡 茂伸 (溝谷)	いりえ しょう 入江 志郎 (国久)	船木、黒部、小田、国久、井辺
久美浜町		やまざき しんご 山崎 伸悟 (霰)	中山、中津、田中、野中、吉野、霰、須川、来見谷、大谷、味土野、川久保
	やまぞえ たかお 山副 孝雄 (鳥取)	よしおか せいじ 吉岡 誠二 (木橋)	鳥取、木橋、和田野
久美浜町	ひらばやし やすのぶ 平林 保信 (甲山)	いそだ かずあき 磯田 和昭 (三谷)	向町、十楽、仲町、土居、東本町、西本町、新町、新橋、栄町、神谷、河梨、口馬地、奥馬地、口三谷、奥三谷、甲坂、栃谷
		ひらばやし こういち 平林 孝一 (甲山)	甲山、浦明、長柄、神崎、鹿野
	せと まきお 瀬戸 牧男 (布袋野)	たにぐち ひろゆき 谷口 弘之 (金谷)	市野々、布袋野、畑、金谷、市場、出角、須田、新庄
久美浜町		おおがき よしあき 大垣 喜昭 (市場)	
	おくにこうたろう 小國幸太郎 (油池)	ともまつ なおみ 友松 尚文 (友重)	橋爪、海士、油池、西橋爪、坂井、友重、品田、新谷、谷、芦原、島
久美浜町		いわさ まこと 岩狭 真 (谷)	
	なかむら けいいち 仲村 啓一 (竹藤)	ふくだ しげお 福田 繁夫 (尉ヶ畑)	尉ヶ畑、奥山、二俣、小桑、佐野甲、佐野乙、佐野丙、安養寺、野中
久美浜町		つじた としお 辻田 壽男 (永留)	郷、円頓寺、坂谷、長野、竹藤、女布、丸山、永留
	かわばた あけみ 川俣 明美 (箱石)	にしがき かずお 西垣 一雄 (三分)	壱分、大井、関、三原、三分、平田
		やぶした ひさお 數下 久雄 (河内)	箱石、葛野、湊宮、大向、河内、蒲井、旭



京丹後紀行

モリアオガエル

～網野町仲禅寺～

地名の由来となっている天台宗中央山仲禅寺は、創建が和銅6年(713年)京丹後市の中でも古く、堂宇も多くあつた丹後多数の大寺であつたと思われる。文明13年(1481年)に造立の金剛力士像(仁王像)は、京丹後市の指定文化財となつてゐる。集落もかつては、寺と共に栄えた門前町であつたに違ひなく、古寺跡(ふでらあと)など伝承地名も残つてゐる。

現在は7戸ながら10名のメンバーが集まつて、国営造成農地でそばを栽培されている。そして、島津の「福祉まつり」などの地域のイベントで、その名も「仁王そば」という手打ちそばを提供されている元氣な集落なのである。

久美浜町川上地区で、「コウノトリと

共に育つ米作りグループ」の代表をされている野村重嘉さんからだいたいた新年の賀状に「モリアオガエル」の写真が載せられていた。蛙は一般的に水中に産卵するが、モリアオガエルは、水面にせり出した木の枝などに泡で包まれた卵塊を産みつける。卵は、約一週間で孵化し、オタマジャクシは雨で溶け崩れる泡の塊とともに下の水面へと落下する。成蛙は、アマガエルに似た青緑色であるがアマガエルよりかなり大きい。

かつて小豆谷と呼ばれた仲禅寺南ヶ丘にモリアオガエルの生息地があると聞き、5月25日に訪れた。(写真はその時のものである。)

この池は、十数年前に国営開発農地を造成した際、一旦は埋め立てられたのだが、住民の要望もあり、モリアオガエルの生態系を保護する池が造られた。そして仲禅寺モリアオガエルは、無事住処にカエル(帰る)ことができたのである。行政も粋な計らいをしたものだと思う。

地域を流れる大橋川は離湖の水源でもあり、初夏にはゲンジボタルの幻想的な乱舞も見られる。

仲禅寺は豊かな森と水辺に囲まれ、心優しい人々の集う地区なのである。

文 嶋田 忠司

アトランティックジャイアントに情熱を懸けてます!!

あきひこ 田中 暁彦さん(39才)



大宮町河辺の田中さんは16年前からジャンボカボチャに心を魅かれ、独学で栽培方法を研究され、毎日ほ場へ足を運んでいます。このアトランティックジャイアントは、ハロウィンかぼちゃとも言われ、非常に硬いかぼちゃのイメージがありますが、大きくなるほど熟して割れやすくなり、水の管理に非常に気を遣う作物だと語られました。

栽培を始めてから100kgを超えるものになるまでに10年。昨年は小豆島で開かれた「日本一どでカボチャ大会」に参加され178.7kgの記録を収められました。この大会で1位になった上野貢司さん(千葉県)は561.6kgの超大物で、日本記録を更新されたそうです。その上野さんに栽培方法を聞いたところ、ライバルは多い方が良いとのこと、快く教えてもらい、そのうえ、超ジャンボカボチャの種子まで分けて頂いたそうです。

今年は、10aのほ場に牛糞堆肥7t、鶏糞700kg、有機化成300kg、液肥20,000ℓ、培養土2,000ℓを大量投入、7本の苗を定植し、現在一番大きいものは胴回り約3.5m、高さ約80cmで重量は推定300kg超の大きさまでになっています。収穫予定時期まで、あとひと月。まだまだ大きくなるカボチャに愛情を注ぎ、今年も9月に開催される「日本一どでカボチャ大会」に参加をされます。田中さんの野望は「日本一」になること。丹後から日本一が出るよう、切磋琢磨できる仲間を募集中です。

〔取材 梅田和男会長〕



手塩にかけ生育中のジャンボカボチャと田中さん

全農地利用状況調査を行っています!!



農業委員会では農地法第30条に基づき、

アンケートでお聞きする内容は、下記のとおりです。

- ①農地利用の確認
- ②遊休農地の実態把握と発生防止・解消
- ③違反転用の発生防止・早期発見

【記】

1. 農地中間管理事業(注1)の利用を希望します。
2. 耕作する人に売却する(または、貸し付ける)こととし、自分で相手先を探します。
3. 自ら耕作します。
4. 耕作・管理をしています。

【事業説明】

(注1)農地中間管理事業とは
農地中間管理機構(公益社団法人 京都府農業総合支援センター(京都アグリ21))が農業経営のリタイヤ、規模縮小など農地の受け手を探している農家から農地を借り受け、農業経営の効率化や規模拡大を考えている受け手(担い手農家など)に貸し付ける制度です。

※上記、事業は受け手が見つかるまでの間は、農地所有者が管理を行うなど条件があります。詳しい内容についてはお問い合わせください。

を目的に、例年実施している市内の全農地の利用状況調査を8月初めから実施しています。調査は、今年7月に新設された農地利用最適化推進委員(36名)が担当区域ごとに現地に赴き、農地の利用状況について確認を行っています。農地利用最適化推進委員が確認のため農地に立ち入ることがありますが、皆さま方のご理解をお願いします。

また、現地を確認後、遊休農地と判断した農地について、農地法第32条に基づき、今後の農地の利用について所有者(利用権設定者)の意向を伺うことがありますので、アンケートの送付があった場合は、提出をお願いします。(平成27年度中にアンケートの送付を行い、回答を頂いた農地については対象外です。)

問/農業委員会事務局 Tel69-0040 ・農政課 Tel69-0410

農業者年金に加入しよう

- 1 農業従事者なら広く加入できます
(60歳未満、国民年金1号被保険者、60日以上従事)
- 2 保険料は自分で選べ、いつでも見直しできます
(月2万円~6万7千円の間で千円単位)
- 3 税制面で大きな優遇措置があります
(保険料は全額社会保険料控除の対象になります)
- 4 積立方式、5 終身年金、6 保険料の国庫補助(要件有)



加入推進部長 澤 幸信委員

◎問い合わせはお近くの農業委員まで!!

郷土料理 おこわ



【材料】

- もち米 …… 1升(約1500g)
- 小豆 …… 200g
- 塩 …… 小さじ1
- 手水 …… 小豆の煮汁(ご飯茶碗に約4杯)

【作り方】

- ① もち米は洗って前の夜からつける。小豆も同様に。
- ② 小豆は水で中火でゆでる。小豆のしわが伸びたら、ゆで汁を捨てる。小豆は塩小さじ1を入れ、差し水をして、中火で小豆を踊らさないように少し固めに煮る。煮汁は取っておく。
- ③ 湯気を上げた蒸し器に蒸し布を敷き、もち米と小豆を混ぜて平らにして、約50分位強火で蒸す。蒸し始めてから約15分後に手水をふりかける。(1升ならご飯茶碗に約4杯)
- ④ せいろをおろして10~15分蒸らす。

効果

小豆は解熱、利尿、便秘防止、むくみを和らげる等の効果があるとされており、サポニンを含んでいるので煮汁を飲むと吐き気をもよおし、悪いものを食べてしまった時に効果あり。

長岡小豆



農地利用最適化推進委員
嶋田 曙記さん
(峰山町長岡)

長岡小豆の名は良く耳にします。長老に尋ねたところ長岡小豆は皮が柔らかく、煮ても割れない美味しい小豆だといわれます。お祝いや行事など小豆で赤飯が作られます。侍の時代には小豆の腹が割れるハ切腹を連想される事で好まれなかったが、腹の割れない長岡小豆は気に入られたという説。また、お菓子屋さん葛で作ったお菓子の中の小豆が型崩れをせず綺麗なまま使えるところから、長岡小豆が重宝されたとの説。江戸時代中期、朝廷に献上したところから大納言と言われるように

赤飯(おこわ)



赤飯にお汁粉、和菓子にと日本人の食と生活に小豆は深くかかわっています。古くから慶事にはかかせない赤飯ですが、

なったとか。お大尽が業者に長岡小豆を注文したが、品不足のため他所より調達したところ、お大尽が袋の中に手を入れ、これは長岡小豆で無いと指摘したとの噂もあり、定かたことは全く分かりません。又、栽培場所に関しても小七郎(京丹後警察署の裏辺り)、与戸(久津方神社の南辺り)、更に本堂屋敷(途中が丘公園)と諸説有ります。ただ、現在は長岡地区で出来た小豆は長岡小豆と言っているようです。



最近はずいぶん影が薄れているように思われ、残念な気がします。人間の一生の節々に、感謝と合掌の気持ちで自然に育まれ、そんな意味で一口ふくんだ赤飯に「幸せ」を感じています。

川津 明美 委員(写真右)
米田 春美 委員(写真左)